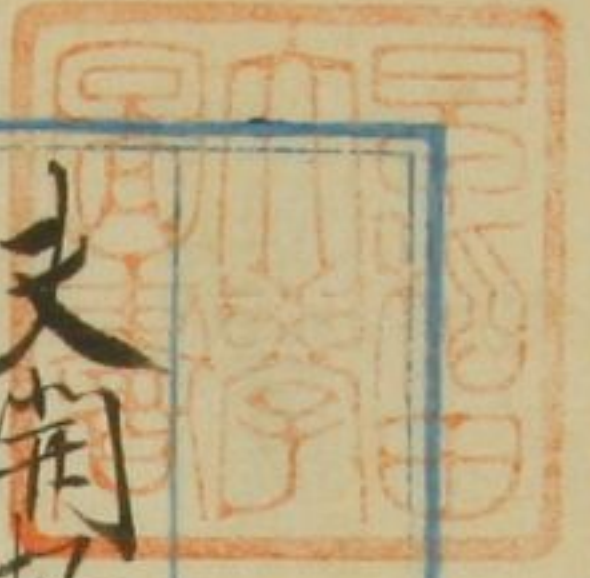


114
A 109



赤心情願

夫用拓使官有物云々矣如發露之世人
 尖口者自持論ヲ唱へ既ニ一歸之政府ヲ憤
 怨スルノ勢事ニ至ラントスルニ際シ 還幸
 ノ今ヤ今カト大旱ノ雲霓ヲ望ムカ如クナリト処
 本月十日 鳳輦歸闕茲ニ台光御陪
 着恭謹奉賀拜歡儀ヲ用拓使長官黒
 田清隆ノ持論断乎ト 宸裁ニ出ツルモ皆

十一月四日
 爵邸寄贈



公道中正、俊秀閣下廟堂參議ノ上位
在リテ排評擯議ニヨリ上ハ王室對シ
奉リ下ハ萬民ノ為メ歡賀幸福ノ至リ我
帝國ノ大柱石人民ノ受母ト謂リ可キナリ頃
日若新紙ヲ綴覽スルニ内閣參議中九ノ
七八開拓使官同意シ中道正理、獨立スル
閣下ハ國會開設ノ急務ナルヲ建議セラルシ
ト實、衆庶人民ハ死体蘇生ノ心地ヲ為シ

感歎ニ耐ヘサラシヤ嗚呼恐ルヘシ懼ルヘシ公
道正理オヤ豈志ヲ放棄セズニハアルヘカラサル
ナリ海生今日ヨリ天地ノ衆人、誓ヒ後傑ノ
閣下ヲ龜鑑トシ立官ノアラシ限リ忠ヲ以テ
君事ヘ信ヲ以テ人ノ交接シ憤棄勉勵シ
國會開設明治 聖明ノ勅諭二十三年
以前、人トナリ民樞議負、公樞セラレ朝
野衆人對シ信ヲ失センコトヲ希望ス然ルニ

俄然閣下冠ヲ掛ケ歸郎ニ給ク日本人民ノ疑團スル處ニテ取謂慈母ニ訣別スルカ思フナシ驚トシテ聽目ニ愕トシテ號咷泣涕悲哀ニ堪ハルナリ請願ク_{身生}赤心ヲ照諒洞察シ長鎮ヘミ閣下ノ奴隸トナシ國會開設法方順序ヲ法問際ニ明說諷導_{アウコトヲ}請願懇禱_{シテ}宿志ノ罷サル處_{ナリ}然ルニ閣下内閣ヲ退坐アリシ后ハ官

權厯制黨團結シテ 聖諭ノ國會開設ヲ妨防セトスル其期會ニ一騎當千屍ヲ原野ニ暴露スルニ更ニ遺憾ナシ請願ク我哀情ヲ愼察セウレ前件情願是非ノ御息令_{アウコトヲ}誓願盟祈ス頌首謹白

政原縣下美濃國惠那郡久保原村寺番地

明治十四年十月十六日 農神谷正雄 神谷 文男

大詰英邁大隈重信俊傑閣下

